

I 実践

1 研究主題

他の人とともによりよく生きようとする児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は「ふるさと大久保を愛し、豊かに生きる児童の育成～大久保のよさを実感し、共に生きる喜びを膨らませながら、夢に向かって歩む子の育成～」を教育目標として掲げている。学校教育に協力的な地域であり、明るく元気な子どもたちであるが、相手の気持ちを察する心遣いができるかという課題が残っている。そこで、この研究主題を掲げ、本校の人権教育を進めていきたいと考える。

(2) 研究内容

- ア 豊かな体験活動
- イ 地域の行事への参加
- ウ 人権に関する啓発活動

2 実践内容

(1) 豊かな体験活動

ア 全校参加のあいさつ運動

毎月第1週に、登校時のあいさつ運動を行う。（6月6年、7月2年、9月3年、10月4年、11月5年、12月1年）普段は恥ずかしがって元気にあいさつできない児童も、クラスの友達と一緒にとなると、上級生にも元気にあいさつすることができ、下級生には優しく声をかける姿がみられる。

さらに、11月にはオズ（親父の会）の保護者も街頭に立ち、子どもたちと一緒にあいさつ運動を行った。あいさつの大切さを知り、気持ちの良いあいさつができるようにするとともに児童同士や教師と児童、地域の人との人間関係を築くことができるよう継続して取り組んでいる。

イ スマイルタイム（縦割り班活動）

本校では、縦割り班活動として「スマイルタイム」を設定している。6年生が21グループそれぞれのリーダーとなり、遊びや愛校作業の計画をし、月1回火曜日のロング昼休みに活動している。遊びや作業の中で分からなくなったり、友達とトラブルが発生したりしたときなどは、6年生が説明したり、お互いの話を聞いたりして、お互いの立場に立って考えられるようにしている。

ウ 草ぬき隊（園芸委員会の花壇整備を助けるボランティア活動）

7月上旬、9月下旬、11月上旬ごろに期間を設けて昼休みに学校の玄関前にある大きな花壇（なかよし花壇）の除草作業をした。ボランティア活動でありながら、たくさんの児童がていねいに作業に取り組んだ。参加した児童には、隊員証（バッジ）がプレゼントされ、中央廊下に隊員名が記録される。

エ 福祉体験・いのちの教育（4年生 総合的な学習の時間）

ゲストティーチャーとして視覚障害のある方とそのパートナー（盲導犬）を招待し、講話をいただいた。体験談と模擬体験を通して、身体の一部に不自由があることでどんな大変さがあるのか理解し、町で出会ったら優しくしたいという思いやりの心を育てることができた。

いのちの教育では、赤ちゃんが誕生するまでや思春期についての講話が行われ、一人一人の命の大切さや、自分の存在の尊さについて深く考える学習となった。また、親と子が一緒に話を聞き、考えることで親子の関係を再認識できた。



オ ワールドキャラバン（6年生 総合的な学習の時間）

市内の大学に通う3か国の留学生が、それぞれの国や文化を紹介した。子どもたちはそれぞれの文化の良さや自国との違いに気付くことができた。

(2) 地域の行事への参加

ア 大久保交流センター主催の敬老会（1年、2年、6年）

9月に行われる敬老会に、2年生の全児童が、音楽の合奏・合唱の発表と呼びかけを行った。また、1年生と6年生の代表児童が作文の発表をした。

イ よかっぺまつり（4年、6年）

例年中学生がボランティアとして参加していたが、昨年度に引き続き体育祭と重なったため6年生がボランティア活動をするようになった。たくさんの6年生のボランティアが集まり、熱心に活動していた。また、4年全児童が、特設ステージで花笠音頭のダンスを披露し、まつりを盛り上げた。

エ 大久保ふれあいまつり（5年）

11月に行われる大久保ふれあいまつりに、5年生の全児童が参加し、合奏と合唱を発表し、まつりを盛り上げた。

(3) 人権に関する啓発活動

毎年1学期終わり頃、人権メッセージの作成について全児童に呼びかけて、人権メッセージの作成を全校で実施している。子どもたちは、「いじめについて考えたこと」「相手の気持ちになって考えたこと」など、自分なりに感じたことをメッセージにして書き留めた。各学年の代表児童のメッセージを人権コーナーに掲示した。

3 研究の成果

(1) 学校や地域で行う行事や地域の方々とふれ合う体験を通して、相手を思いやる気持ちが育ってきている。また、友達とのかかわりの中で、学習・生活全般を通して、相手を思って行動したり、助け合おうとしたりする心が育ってきている。あいさつ運動では、あいさつする側とされる側を経験することで相手の気持ちを考えることができ、あいさつの大切さを感じることができた。さらに、普段から委員会の児童が率先してあいさつ運動を率先して行うことで、日々あいさつをする児童が増えた。

(2) 地域の行事に積極的に参加する取組を通して、ふるさと大久保の良さを再確認するとともに、地域に住む方々を大切にする心が育ってきている。

(3) 人権メッセージの取組を通して、家庭や友達、多くの人々に支えられていることを再確認し、感謝の気持ちをもつとともに思いやりの心を育むことができた。

II 今後の課題

1 思いやりの心は育ってきているが、軽い気持ちでのからかいや、「みんながやっているからやってしまう。」といった判断力の乏しさを感じることもある。その場の判断力と実践力、人権感覚の育成を今後も図っていきたい。

2 人権に関する理解と認識を高め、指導力の向上を図る教員研修を充実させたい。

III 人権コーナーの設置の様子



左：1学期

右：2学期